

1月21日

殉教者おとめアグネス

Agnes

(304頃)

～ローマの女性殉教者～

伝説によると、ローマ皇帝ディオクレティアヌス統治の時代にアグネスはキリスト者としての迫害を受けたのですが、その時彼女はわずか12,3歳だったと言われています。

アグネスは、神にのみ仕えるという決心から、ローマの長官の息子との結婚を拒否しました。そのために恨みを買って、キリスト者であることを糾弾されます。そして異教の神々を崇めることを拒否したことにより、酷い拷問を受け、衣服をはぎ取られてしまいます。するとすぐさま天使たちが現れ、全身を彼女の髪の毛で覆ったといいます。さらに迫害者たちは、大きなまき束に火を付け、それを彼女に向けて投げつけましたが、その火は一瞬にして消され、彼女はひとつも傷を負わなかったそうです。そして、アグネスは斬首されます。

天に召されて後しばらくして、両親が彼女の墓の前で祈っていると、アグネスは、両親の前に、白い小羊を傍らに抱き、輝く姿で現れました。彼女は、両親に対し、天において救い主と永遠に結ばれているから、涙を拭くように語ったと伝えられています。

アグネスは、美術作品の題材として好んで用いられ、デュッチオ、



Saint Agnes

ティントレット、フラ・アンジェリコなど、多くのルネサンスの画家に愛されました。アグネスは小羊とともに描かれることが多く、アグネスの名前がアニユス（ラテン語で羊）に関連するとも考えられがちですが、ギリシア語のアグネイア（白、または純潔）に由来しているというのが一般的です。

殉教者として描かれるときには、片手にやしの枝葉、もう一方に剣を持って描かれ、剣が彼女の喉元を刺し貫いていることもあります。その際アグネスは、たいいてい長い髪の毛を持っていますが、裸体にその毛が巻きついている描写もあります。

アグネスの骨はローマのサンタニューゼ・フォリ・ラ・ムーラ聖堂に、また頭蓋骨は聖アグネス聖堂にあります。そこには今も多くの巡礼者が訪れています。

<特禱>

全能の神よ、あなたはみ力と恵みによって、聖なる殉教者おとめアグネスに苦難に勝ち、死に至るまで忠実である生涯を与えられました。どうか恵みをもってわたしたちを強め、どのような迫害にも耐え、主イエス・キリストのみ名を忠実に証することができますように、主は父と聖霊とともに一体であって世々に生き支配しておられます。

アーメン